

～泥炭性軟弱地盤対策工マニュアル～

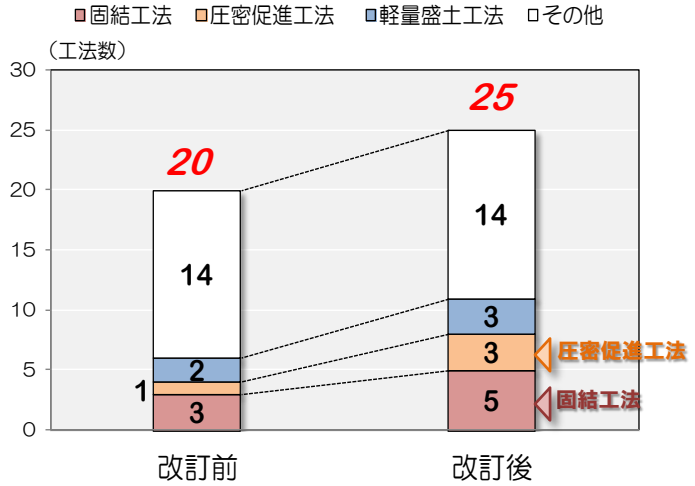
■適切な対策工選択の拡大

適切な対策工の選択肢が拡大

- 「泥炭性軟弱地盤対策工マニュアル」の改訂により、北海道の泥炭性軟弱地盤で盛土を建設する場合の選択可能な工法が**20⇒25工法**に拡大し、建設現場の状況に合わせた適切な対策工の選択が可能となりました。
- 特に、従来工法の適用が困難な地盤や施工時の振動・騒音など周辺への影響が厳しく制限される場合に用いられる**固結工法は3⇒5工法**、短期間で沈下収束や地盤強化を図る**圧密促進工法は1⇒3工法**に拡大し、現場の作業効率が向上しています。



現場状況に応じた適切な対策工の選択による
「**コスト削減・施工期間の短縮**」の実現

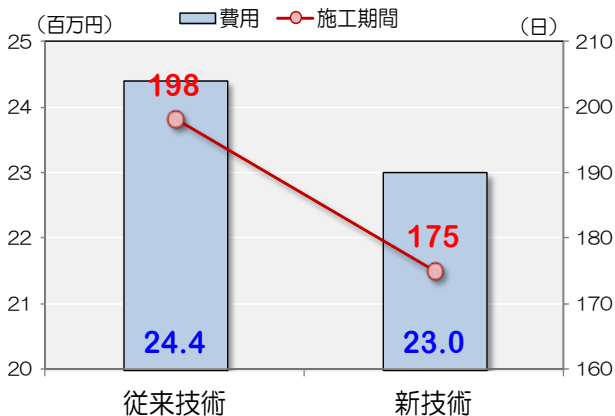


【泥炭性軟弱地盤対策工の選択肢の変化】

■コスト縮減・施工期間短縮の実現

約1割のコスト縮減・期間短縮

適切な対策工を選択した場合、例えば道央圏連絡道路美原道路では、従来工法に比べ選択した新技術工法により、**約1割のコスト縮減が実現**されたほか、**施工期間は20日以上短縮**が実現されています。



【道央圏連絡道路・美原道路
コスト縮減・施工期間短縮効果】

※従来技術：真空圧密工法（気密シート）新技術：真空圧密ドレーン工法

■広がる適用の可能性

道路以外の現場への適用

「泥炭性軟弱地盤対策工マニュアル」は道路の建設を対象としたものですが、調査・設計・施工の基本的な事項は、河川堤防など、その他の土構造物、または土構造物以外でも、適用することが可能となり、本マニュアルの適用範囲が広がっています。

